



『トクシマ・アンツアイガー』

第1号

徳島

1915年4月5日

「皆さんが前から抱いていた希望に応えるため、このたび新聞を出すことにしました。本紙が長期にわたって花をつけ、成長し、大成することを願っています」。

たいてい新しい新聞は、このような言葉を付けて発刊されるのがふつうです。

今回日の目を見た『トクシマ・アンツアイガー』では、こんなきれいごとの導入を省くことができるのみならず、省かねばなりません。そんなことは、この新聞にはふさわしくないからです。せいぜいのところ「前から抱いていた希望」には、応えたいと思っていました。けれどもわれわれの収容所と世間一般のことを同列に語るのは、ばかげたことです。

われわれは、この新聞が長続きすることなどまったく望んでいません。というのも、愛する故国に旅立つためこの収容所の門から出てゆく日には、新聞も終わりを告げるからです。そしてわれわれのうちで、この日が早く

来ることを、ほんとうにすぐにでも来ることを望まない人はいないでしょう。

この新聞がめざしていることを簡単に申ししましょう。さしあたってはこの『トクシマ・アンツアイガー』を出すことで、ドイツ・アメリカ・イギリス・日本の新聞からの情報をきちんと皆さんにお伝えします。もちろんこの新聞が出ない日には掲示でお伝えします。

同様にこの場で付け加えておきますが、イギリス・フランス・ロシアの資料から集められた報道は、いつもある程度用心しながら味わうべきです。

さらに『トクシマ・アンツアイガー』は、現在の戦争の詳細の中でもっとも大事な出来事を取り扱い、ほかの新聞からもとりわけ適切な論説を採りあげるつもりです。

最後にわれわれの日常の出来事にも目を配り、この単調な生活に何らかの変化を与えそうな刺激を与えなければなりません。例えばチェスコーナーがこうした務めを果たします。

そして『トクシマ・アンツアイガー』を、次のような願望と共に送り出したいと思います。それは、この新聞がいつもドイツの勝利を伝え続け、そして最後には、すべてのわれわれの願いと期待を満たしてくれるような名誉ある講和をお伝えすることです。

ダーダネルス海峡（１）

戦闘の動きを論ずる上で焦点となるのは、ここ数週間のダーダネルス海峡での作戦である。

以前からすでに何度もダーダネルス要塞は砲撃されてきたが、最近はいギリスとフランスの連合艦隊が激しい砲撃を行い、より強力なフランスの大部隊をトルコに上陸させるつもりらしい。これに併行してロシアの黒海

艦隊は、ボスポラス海峡を砲撃した。

ところで疑問なのは、なぜダーダネルス海峡がそんなに激しい攻撃にさらされ、しかもなぜ今の時点でそうされるのかである。ここできちんとした答えを出すのは容易でない。というのもこの戦場にこんな大変な兵力を注ぐ突発的な行動の理由はいくらでもあり、それらのうちもっとも大事なことを探り出さなければならないからである。

イギリスの新聞の報道では、ロシアが同盟国にダーダネルス海峡とボスポラス海峡を自由に航行できるように、手を尽くしてほしいと要求したという。そのためにはロシアに差し当たり必要な弾薬やその他の海軍が補充され、黒海の港に集められたたくさんの保有小麦の出口を作られねばならないというのである。

自国産の小麦を輸出することでロシアは財政面で大きな利益を手にするばかりでなく、平時はロシアの小麦を大量に輸入しているイギリスとフランスにとっても大きな意味がある。とりわけロシアの小麦をふたたび市場に持ち込めるという点が重要で、すでにひどく上がっている食料の値段のさらなる高騰を防げるからである。この穀物を輸出する別のルートはありえない。黒海の港への敵船の航行は、われわれによって封鎖されている。白海の港のアルハンゲリスクは今のところまだ凍っていないが、ロシアの小麦産地からはとても遠く、一本の長距離鉄道によって国内とつながっているだけである。けれどもかりにアルハンゲリスクが凍ってないとしても、この港は小麦の船での輸送を念頭においたものではない。長い鉄道輸送は一黒海からアルハンゲリスクまでの距離は2千キロあり、ケーニヒスベルクとケルンの2倍もある一ひどく高いものにつき、イギリスやフランスのマーケットによい影響をもたらしはしない。そのうえもちろんこのようなルートに加わることができるのは、わずかの量だけである。ウラジオストクからの船での輸送は、もちろん同じような理由からまったく考えられない。

これらの多かれ少なかれ経済的な理由のほかに、戦略的か政治的原因が

今回のダーダネルス海峡での活動を引き起こしたのかもしれない。

コーカサスとペルシャでロシアと戦っているトルコの兵力は、疑いもなくロシアにとってひどく不愉快な敵になっており、さもなければ他の戦場に振り向けたいようなかなりの大部隊を釘付けにしている。

トルコのスエズ運河やエジプトへの進撃が、イギリスの眠れない夜の原因になっていることは確かである。イギリスの電報がすでに伝えているとおり、ダーダネルス海峡に向けて艦隊が動いたため、トルコはエジプト作戦を放棄したらしい。もしもこの報道が事実をきちんと伝えたものでないとしたら、ロンドンの人にとってもサンクト・ペテルスブルクの人にとっても、トルコは軍隊をシリアとコーカサスからダーダネルス海峡に移すだろうという希望に身を託していたかもしれない。というのもトルコはまだコンスタンチノーブルとその周辺に、敵の強力な上陸を効果的に迎え撃つのに十分な軍隊をもっており、2, 3日前の事件が証明したように、艦隊によってだけではダーダネルス海峡を通過できないことが明らかになったからである。

政治的立場から見れば、ロシアは現在の混乱を利用しようとしている。そうすることで長年の願いであるコンスタンチノーブルを自国の港とし、黒海をロシアの湖にすることを達成しようとしているのである。

このことは、地中海に関心のある強国わけでもイギリスとフランスにとっては、コンスタンチノーブル¹がロシアのものになることを意味する。コンスタンチノーブルとダーダネルス海峡がロシアの手に帰するとなると、もしロシアがその資格があると自任すればだが、地中海における第一人者の役割を演じることになろう。しかも軍事面ばかりでなく、商業政策の面でもそうなる。まだそうでないとしてもバルカン諸国は、ロシアの家来になることだろう。したがって古くからのヨーロッパの列強の均衡はロシアの恩恵に帰することになり、このようなことではヨーロッパの大国は利益を得られないことになる。

1 イスタンブールのこと

ロシアのコンスタンチノーブル領有はインド航路をも脅かすことになり、イギリスはロシア領化への絶望的な行動として同意できないというポーズを取るしかないことになろう。植民地のほとんどがそこにあり、地中海に大きな力を持つフランスも、確かにコンスタンチノーブルを思いのままにするというロシアの企てには強く反対している。したがってこの2つの強国は古いビザンチンの獲得に参加したがっており、ひょっとしたらこの大事な地域の最後の運命を実際に自分たちの至上命令で左右しようとして、介入したがっているのかもしれない。

しかしそこまで行くには、まだ間があろう。トルコというボスポラス海峡の病人はまだかなりの活力を秘めており、統一艦隊はしばしば頭から血を流して後退せざるをえなかった。おそらくロシアによるボスポラス海峡の爆撃は、ダーダネルス海峡での同盟国の努力よりはるかに小さな効果しかあげていない。

ともかくコンスタンチノーブルの将来についての敵の争いは、まるで熊を捕まえる前に熊の毛皮を配分する〔つまり、取らぬ狸の皮算用〕という印象を受けるが、われわれ自身は熊が捕まることはないと確信している。

表 彰

フォン・シュレーダー提督の指揮下にあり、海軍膠州砲兵大隊の本隊も属している海軍軍団が、ベルギーの戦闘でたいへんな戦果を上げたとのことである。この件で多くの仲間が表彰された。耳にしたところでは、火工下士官ヴェルニッケ（前海軍膠州砲兵大隊第4中隊）が第1・第2級鉄十字勲章を獲得、火工下士官ヘーヴィヒ（前第3中隊）、一等兵曹ブルト（前第2中隊）、一等兵曹ツイートケが第2級鉄十字勲章で表彰された。第一級鉄十字勲章は、われわれの知る最高の戦功章である「プール・ルメリット」

勲章に次ぐものであることを思えば、特にヴェルニッケ火工曹長がどんなことをなしとげたかがわかる。膠州海軍砲兵隊は、この戦友たちを誇りに思ってよいだろう。

耳にしたところでは、アンデルス少佐（第3海兵大隊）殿が鉄十字勲章を授与されたそうである。

コンサート

ここにもう一度、今晚大ホールで開かれる復活祭コンサートのプログラムを載せておく。

第1部

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1. モーツァルト | 弦楽四重奏曲 作品80 |
| 2. チャイコフスキー | カンツォネッタ（ヴァイオリン協奏曲から） |
| | 独奏 ハンゼン一等軍楽兵曹 |

第2部

- | | |
|-----------|--------------------|
| 1. アイヒホルン | 3つの歌 |
| | 合唱団との共演 |
| 2. ハンゼン | 戦闘前夜のドイツ兵士の夢 |
| | 独唱 ヴェルナー副曹長 |
| 3. ジレー | ワルツ間奏曲「踊りから離れて」 |
| 4. ノヴォトニー | すべての榮譽はオーストリアに |
| | （1914年ブリュッセル入場行進曲） |
| | 全員で |

われわれの音楽

「一曲歌いたいね、私がギターで伴奏するから」。そう言って日本人にギターを注文した。けれども残念ながらその日本人はドイツ語がまったく判らなかったで、ギターの代わりにチェロをもってきた。これが、われわれのオーケストラの始まりだった。前から2、3丁のヴァイオリンがあり、親切な寄付のおかげでさらに2、3丁のヴァイオリンと1丁のヴィオラが手に入り、今は音楽クラブをもてるようになった。もちろん初めのうちほとんどのメンバーは、自分の楽器のテクニックをまったく初歩から身に着なければならなかったが、好きだからといって何でもやれるわけではない。われわれは短時間で、すばらしいことがたくさんできるようになった。けれども楽器と熱意だけではことは進まず、楽譜もなければならぬ。すでに大阪で合唱団を立ち上げた際にこうした欠陥は痛感されていたが、もちろんとりわけ楽器にとってはこのことはどうしようもなかった。このメンバーにとっては、オーケストラがいつでもあるわけではなかったからである。そのためもあって芸術家たちは今演奏しているメロディを中断し、それに新しいものを加えて「作曲する」ことになった。したがってわれわれはこうした関係からも、かなり多くの歓びを期待することができた。今日の公演の夕べは、一部は音楽のもつもっともすばらしいものに捧げられるはずである。モーツァルトの四重奏曲とベートーヴェンの三重奏曲という室内楽やハイドンの室内楽作品、それらを知っている人なら名前を聞いただけで楽しい気分になる。したがって、モーツァルトの四重奏曲第1番はわれわれを楽しませてくれよう。モーツァルトのすばらしいメロディの第一主題は、どのように響くのだろう！アレグロは、どんなに新鮮に迫って来るのだろう。それからメヌエット！それを聞いてきた人は忘れられようか。ようやく楽しい鳥の歌のような第4主題、それに突然脅して訴えるようなまじめな響きまで混じってくる。もう息の詰まるような楽しい高揚、明るい歓声のうちに主題は終わる。そう、これがモーツァルトなのだ。そ

のほかにこの夕べは、われわれをまだいくつかの楽しい混乱に巻き込んでくれる。コンサートマスターはオーケストラとともに、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲の楽章のひとつを演奏する。合唱団は「三つの歌」を歌い、ソロは前と同じくヴェルナー氏が担当している。この夕べの最後はとうとう軽音楽になり、誰でもできるダンスや行進を演ずる。できればすべてが「うまく」いくように、そうすれば楽しい時間になることだろう。

くじ引き

昨日の日曜日わが収容所の大ホールで、復活祭びっくり行事のくじ引きが行われた。これらの景品は、ありがたいことにこの目的のために神戸市のドイツ婦人方からキューパー火工副下士殿に送られてきたもので、それらが寄付によってさらにふくらみ、補強された。みんなの気持ち、ことに幸運な当選者の気持ちでもあろうから、この場でもう一度親切な寄贈者に心からお礼を申し上げたい。

徳 島

おそらく多くの読者は、徳島市についてもっと詳しく知りたいと思っていることだろう。われわれは戦争が続くかぎり、いやでもここで生活しなければならないからである。

徳島市はほぼ北緯 35 度の所にあり、マルタ島とほぼ同じ緯度である。けれども気候はかなり異なっている。ここ徳島では気温は冬には約マイナス 3 度まで下がり、夏には（一年間で）最高のほぼ摂氏 36 度に達する。読者諸兄はすでにここの冬を体験したし、ともかくこの夏はここで過ごさなければならないのだから、自分なりにこの地の気候の状況をイメージできれば一番よいだろう。

この市の現在の人口は約6万5千で、四国島（つまり4つの地方）の吉野川の河口に位置している。徳島は、阿波地方の首都である。四国にあるほかの3つの地方の名は、讃岐・土佐・伊予である。

この街の見所はそう多くはなく、読者の間ではすでに何度かの遠足で判っているだろうから、ここでその一々を挙げる必要もなかろう。しばしば見てきたとおり、この小さな町は勤勉で活々した生気に溢れている。

かつて徳島は、藍（染料）の輸出で日本一の地位を占めていた。けれども近年は天然藍の生産は、人造インディゴをより安く生産するドイツの染料産業が伸びたため押しのけられ、今ではもはや大した役割は果たしていない。日本中どこでも木工産業が盛んだが、特にここでもたくさんの下駄（日本風の本靴）が作られている。

ここには綿紡績工場もあり、その生産品のほとんどはこの地の家内工業を通じて加工されている。

スポーツ

最近サッカーやファウストバルへの関心が高まっているのに、緑の芝生で見かけるのはいつも同じ人たちだけということが続いているのは憂うべきことである。だから新しいチームを作ってほしい。それは、皆が健康によいスポーツに可能な限り励むことができ、あらゆる上達にとって大事な競い合いがもっとできるようにするためである。

その際、さらに組織化も望まれる。試合時間を定め、他チームとの試合をセットし、自ら試合を進めるといったことを行うリーダーをそれぞれのチームは選ぶべきである。

ことにサッカーについてはいろいろ言われているが、このゲームには品のよい落ち着きが望まれる。さらにサッカーの「ハンド」だが、それはたくさんフリーキックを生み、ゲームを中断するだけで、敵に必要なない

メリットを与えることになる。

陸上競技にも、大きな活動の場が与えられている。だから「グリーンの芝生に出かけよう！」

チェス・コーナー

チェス盤の 64 のマス目を表わすには、次のような仕方であらから h の文字と 1 から 8 の数字を用いる。左の白のルークからそれに対面する黒のルークの線が a の線である。この線のマスはそれぞれ番号を割り当てられ、白のルークは a1 黒マスであり、ルークのポーンは a2、黒のルークは a8、ルークのポーンは a7 である。対応するようにそれぞれの線が名づけられ、白のキングは e1、そのポーンは e2、黒のキングは e8 などである。その他次の略語が使われる。キングは K、クイーンは D、ビショップは L、ナイトは S、ルークは T、駒のマークのないのはポーンである。×は「取る」の意味で、+は「チェック」、0-0 は小キャスリング²、0-0-0 は大キャスリングである。ここではいつも課題か興味ある勝負が提示される。正解回答者の名は明示される。

〔訳者注：この和訳で、駒の略語はこのドイツ語を用いる。〕

第1問 白：Kb1, Ta6, Th7, d6, e7

黒：Ke6

3手詰め³

第2問 白：Kb1, De3, Ta1, Ba2

黒：Kd1, Ba3

3手詰め

2 自陣での位置交換のためキングとルークを同時に動かす手

3 この手数は、先番の白が駒を動かす回数を表す。

ユーモア

無敵艦隊（アルマダ）

誇り高いロシアの黒海艦隊は、3つの部分に分けられた。もっと誇り高くなることだろう。まもなくそれらの船のそれぞれが、3つに切り離されることだろうから。

アントワープが持ちこたえることができなかったとき、キッチナー卿は怒りのあまりはらわたが煮えくりかえった。それは驚くに当たらない。というのも実をいうと、キッチナーとはドイツ語で言うコッヘル（小型湯沸かし器）のことだからだ。

電 報

イギリスからの電信によると、次の汽船がUボートに沈められたそうである。

フランスの汽船「エルマ」がドーバー海峡で沈没、7人が溺死。

イギリス汽船「サウスフォード」がフィニステル岬で沈没、乗員は救助。

イギリス汽船「セヴン・シー」がビーティーヘッドで沈没、7人が溺死。

イギリス汽船「クラウン・オブ・カスチール」がテリー諸島で沈没、乗員は救助。

イギリス汽船「フラミニアン」沈没、乗員は救助。

ニューヨーク 4月1日

イギリスの飛行機2機が、ドイツのホボーケンとツエーブリュッケのUボート避難港を攻撃した。両港のUボートは破壊されたらしい。

サンフランシスコ 4月1日

ロシア軍が、ワルシャワ西部の長さ 55 マイルに及ぶ前線でドイツ軍を攻撃した。ベルリンによると、3 月には 5 万 5 千のロシア兵がポーランドで捕えられたという。

ペトログラード 4月1日

カルパティア山脈のある地域で、3 月 20 日から 29 日の間に 16,410 人の俘虜と 72 基の大砲を捕獲した。

ロンドン 3月31日

シムラ（インド半島）からの報道では、トーチ攻撃のためゲレム族の関係者 1 万人が集められたという。2 つの騎兵中隊とノース将軍指揮の山岳砲兵中隊が、敵を撃退した。敵の死者は 200 人、負傷者は 300 人である。（編集者の注 この報道が興味深いのは、インドでも反乱が起こっているという、これまでいつも隠そうとしていた事実をイギリス人が認めている点である）